

夢を
追って

本当の
ゴールは
まだ遠く

世界中の仲間とともに 地球温暖化に挑む！

WWFジャパン 自然保護室 室次長兼気候変動・エネルギープロジェクトリーダー 小西 雅子氏

奇跡が起きたパリ協定 そして始まる人類の挑戦

2015年12月12日、地球の未来を照らす、一つの奇跡がフランスで起きたことを、皆さんは知っていますか？それは「パリ協定」と呼ばれるもので、世界195か国の政府代表（約3万人）が一堂に会して行われた地球温暖化の国際連合会議COP21^{※1}で締結された気候変動抑制に関する国際的な協定です。

多くの人が知っているように、地球温暖化は深刻な環境問題を引き起こしており、現在の状況が続けば、100年後、地球の平均気温は今より4℃上昇する可能性があります。そうなること、どのような事態が起きるのか。海面上昇や異常気象は激しさを増し、人類は

地球と共生することが難しくなるかもしれない。そんな未来を変えるため、私は国際環境保全団体WWFで、地球温暖化とエネルギー問題を担当する専門官を務めています。具体的な活動は環境問題の深刻な状況を政府に訴え、対策などを提示すること。アドボカシー（政策提言）が主な仕事です。

これまでWWFは、COPをはじめとした国際交渉の場で、各国政府に地球温暖化の対策の必要性について繰り返し訴えてきました。けれど経済の問題などと比較された場合、100年以上先に起きる環境問題は緊急性が低いと見なされることが多く、たくさんの国々の間で危機感を共有することが難しかったんです。それでも決してあきらめず、世界中で活動する仲間とともに環境保全の重要性を訴え続け、その声が各国の政府関係者に届いた証こそパリ協定です。パリ協定ではさまざまな成果は「世界の平均気温の上昇を産

●こにし まさこ

- 1958年 兵庫県神戸市生まれ
- 1977年 神戸大学文学部に入学
- 1981年 中部日本放送にアナウンサーとして入社
- 1997年 気象予報士の資格を取得し、気象キャスターとして活躍。同時期に異常気象への理解を深め、環境保全に意識を向け始める
- 2005年 ハーバード大学院修士課程修了、WWFジャパンに入局
- 2015年 COP21に参加し、パリ協定の合意に尽力する



※1 COP21……COPとは「Conference of the Parties」の略。正式名称は「国連気候変動枠組条約第21回締約国会議」。1992年、国連の地球サミットで「気候変動枠組条約」が採択され、以後、国際会議の場で地球温暖化対策を話し合ってきた。

業革命前と比較して2℃未満に抑えるため、21世紀の後半には、温室効果ガスの排出を実質ゼロにする」という目標に合意がなされたことです。

私はパリ協定が合意された現場にいたのですが、あのときのことは今でも鮮明に覚えています。WWFのスタッフは全員、環境保全のために日夜奮闘し、世界各国から少しずつ理解を得ていきましたが、国際的な協定が本当に締結されるのかと不安は拭いきれませんでした。だからこそパリ協定が合意されたときは感動のあまり涙があふれ、国連の職員や研究者、メディア関係者などと抱き合い、互いの健闘を称え合いました。

しかし、本当に大変なのは、これからです。この協定で定めた目標を達成するために、私たちは国を越えて協力していく社会を実現しなくてはなりません。パリ協定は、人類が地球と共生していく世界を構築するという、挑戦の第一歩と言えるでしょう。

子ども時代に身につけた勉強癖が今の支えに

今でこそ私は環境保全などの仕事をしていますが、子どもの頃から地球温暖化や気候変動に強い興味を抱いていたわけではありません。小学生の頃は外で元気に遊び、ときには読書を楽しむ、そんな普通の女の子でした。6年生のときに父の仕事の関係でドイツへ渡りました。当時はまだ日本人学校が

なかったため、現地のギムナジウム（ヨーロッパの中等教育機関）に入学しました。ドイツ語はおろか英語も話せなかったため、最初は友達とおしゃべりを楽しむことも全くできず……。でもクラスのみんなは身振り手振りでコミュニケーションを図ろうとしてくれたんです。また語学の家庭教師が週4日来てくれたので、半年ほどで言葉の壁は感じなくなりました。

日本に帰国したのは高校生の頃で、そこから再び家庭教師に来てもらうことになりました。なぜかという、日本の高校の授業はドイツよりも進んでいて、特に物理や化学、数学で学習内容に大きなギャップがありました。夏休みを利用して家庭教師に来てもらい、朝から晩まで勉強。おかげで成績が上がりました。地道に勉強に取り組み習慣も身につきました。それを生かして大学受験を乗り越え、入学後は中学生の頃から憧れていたアナウンサーを目指しました。

こうして振り返ると、私の学生時代は勉強ばかり。だけど、不思議なことに、当時は勉強漬けの日々という意識はありませんでした。それは私自身が「勉強ができてラッキー！」と感じるように、両親が誘導したからだと思えます（笑）。学生時代に身につけた勉強癖は今も役立っています。

「過去の自分から質問！」
どうしてそんなにがんばることができたの？



仲間をつくることで道は拓ける！

大学卒業後、憧れていたアナウンサーの仕事に就き、気象予報士の資格取得をきっかけに気象キャスターへ。そのときに参加した国際気象フェスティバルという国際会議で異常気象への理解を深め、環境保全に意識が向くように。同じ時期に「排出量取引制度」を新聞で知り、「環境保護の仕組みを経済に組み込むなんてすごい！」と感激し、約1年間の留学後にWWFに入局し、現在に至ります。

実は前に話した、パリ協定の「100年後の平均気温の上昇を2℃未満に抑える」という目標は、2010年時点の国連交渉です。WWFは2011年に「2050年に自然エネルギー100%の社会は可能である」という主張を科



※2 排出量取引制度……企業や国などが温室効果ガスを排出することができる量を排出枠という形で定め、排出枠を超えてしまったところが、排出枠よりも少ない排出ですんだところから排出枠を買うことによって削減したとみなす制度。環境保護を経済の仕組みに組み込んで、環境保護に興味のない人も含めて全員が環境保護に携わることになる。

「今の自分が答える！」 同じ志を持ち、 苦しいときに 励ましてくれ 仲間がいたから。



学的根拠を持って世界的に展開しました。しかし、一部の国々は後ろ向きな姿勢を示し、私たちが訴えてきた環境保全についての対策は、国際会議で合意を得られずに終わっていたのです。

しかし2015年のCOP21は、同じ結果で終わらせるわけにはいきませんでした。温室効果ガスを700ギガトン以上排出すると2℃以上の気温上昇は免れることができませんが、2015年時点で500ギガトンの温室効果ガスを排出していました。

現状を変える大きなチャンスがパリ協定だ。これを逃がすわけにはいかなない。そう決意した私たちは、2013年から2015年の2年間、研究者とともにレポートを作成したり、世界各国のWWFスタッフと作戦会議を何度も繰り返してCOP21に臨みまし

た。しかし、最初の1週間はこれまでの国際交渉と同じように、参加国が自国の都合や権利などを主張し、進展は見られませんでした。どうにか突破口を見つけようと、各国の政府関係者と話し合いを重ねる中、EU（欧州連合）の関係者が「この問題の突破口は仲間づくりだ」と言いました。国際交渉は、基本的に先進国と途上国のグループに分かれて行われるのですが、欧州連合が途上国とグループを組んだのをきっかけに、ほかの国々もそのグループに加わり、最終的に100か国が団結してパリ協定が合意されました。

この場面を目の当たりにし、困難を乗り越えるためには誰かに協力を頼むこと、仲間を増やすことが大きな意味を持つのだと実感しました。私がんばり続けることができたのも、同じ志を持った仲間たちがいてくれたからこそ。一人の力は微々たるものであっても、たくさんの仲間と協力することで夢や目標を成し遂げることが出来ます。小学生の皆さんにも、仲間と協力する姿勢を大切にしてほしいと思います。

そして、もう一つ大切なのはグローバルな視点を持つことです。日本だけではなく、外国で起きた事件やニュースにも興味を持ってみましょう。そうすることで、自分が何をすべきなのか見えてきます。皆さんが大きな視野を持って、社会へ巣立っていくことを期待しています。



1 WWF中国が主催した企業向けセミナーで講演。2 COP21に参加し、テレビ取材を受けている様子。3 2016年7月に発行した著書『地球温暖化は解決できるのか』（岩波書店）。パリ協定など温暖化全般についてわかりやすく学べる。